

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「稲作情報（第7号）」について（送付）
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

稲・大豆作情報（第7号）

1. 情報田生育調査結果について

(1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年：6/9)	6月18日 (平年：6/20)	6月23日 (平年：6/19)
栽植密度(株/m ²)	15.6 (52.1株/坪)	16.8 (55.9株/坪)	18.7 (62.2株/坪)

(2) 調査結果（8月16日現在）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	出穂期	90.5	78.2
平年値(平年比)	8/14	83.8(108)	75.3(104)
莖数(本/m ²)		477	699
平年値(平年比)	止葉葉位	440(108)	601(116)
葉齢(L)	13.5	14.1	14.1
平年値(平年差)		14.3(-0.2)	14.1(0.0)
葉色(SPAD値)	止葉葉色	37.2	38.5
平年値(平年差)	36.7	37.0(+0.2)	37.3(+1.1)

概況

気象（8月10日～8月17日までの期間）
【平均気温】平年より0.2℃高い。 【日照時間】平年比107%と多い。
【降水量】平年比100%と平年並み。

生育（平年と比較して）

草丈：「さがびより」は高く、「ヒヨクモチ」はやや高い。
莖数：「さがびより」、「ヒヨクモチ」は多い。
葉齢：「さがびより」、「ヒヨクモチ」は平年並み。
幼穂長：「さがびより」で10mm程度「ヒヨクモチ」で1mm程度。

留意点

「夢しずく」はデータ蓄積がないため、本年度データのみ記載。

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7か年の数値を8月16日に換算し、そのうち最高、最低を除いた5か年の平均値。

「ヒヨクモチ」はR1,2年データ欠損のため、平年値はH28～R4(R1,2除く)5か年の平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

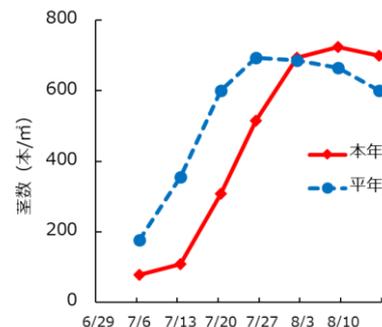
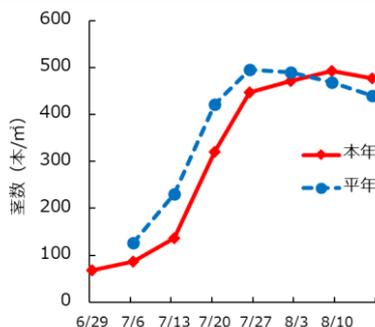
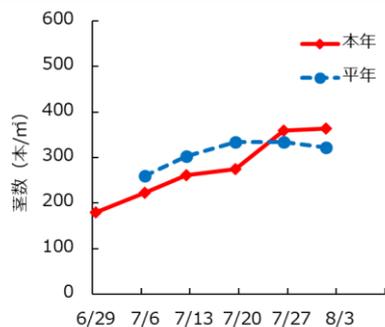


図 茎数の推移 (左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ)

農業試験研究センター米づくり情報 7号 8月14日(抜粋)

本年産水稻の生育状況 (8月14日)

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	品種	年次					
6月19日	夢しずく	本年	90.4	417	13.8	38.9	[気象] 8月7日～8月13日まで ◆平均気温…平年より0.6℃高い ◆日照時間…少ない(平年比 87%) ◆降水量…多い(平年比 113%) [生育] ◆草丈 「さがびより」で平年並み、「夢しずく」「ヒノヒカリ」でやや低く、「ヒヨクモチ」でやや高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」では多い。「さがびより」ではやや少ない。 ◆葉齢 「夢しずく」「ヒヨクモチ」でやや進んでおり、「ヒノヒカリ」「さがびより」で平年並み ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」「ヒノヒカリ」では高い、「さがびより」「ヒヨクモチ」ではやや高い。
		平年	94.2	392	13.3	36.6	
		平年比(差)	96	106	+0.5	+2.3	
	ヒノヒカリ	本年	80.8	516	13.4	40.5	
平年		83.7	476	13.5	36.2		
平年比(差)		97	109	-0.1	+4.3		
6月20日	さがびより	本年	78.9	466	13.7	36.6	
		平年	79.3	476	13.7	35.7	
		平年比(差)	99	98	±0	+0.9	
	ヒヨクモチ	本年	74.5	762	14.5	37.2	
平年		71.9	607	13.9	35.7		
平年比(差)		104	126	+0.6	+1.5		
留意点	○ 「さがびより」及び「ヒヨクモチ」は穂肥の時期をまもなく迎える。穂肥診断に基づき施用する。 標準的な穂肥時期は「さがびより」で幼穂長 10mm、ヒヨクモチで幼穂長 1mm である。 (農試の 8/14 現在幼穂長は「さがびより」2.7mm、「ヒヨクモチ」0.5mm) ○ 水管理は、穂肥施用時の湛水管理を除き、引き続き間断湛水を行う。 ○ トビイロウンカ、いもち病、紋枯病の発生に注意し、的確な防除を行う。						

2. 普通期水稻の今後の管理について

トビイロウンカの防除時期を迎えるため、適期防除に努めるとともに、防除時には湛水し防除効果を高める。
 圃場ごとに発生状況が異なるため、防除後も発生状況を注視し、必要に応じて臨機防除を行う。

(1) 水管理

- すべての品種で幼穂形成期～出穂期に達している。水分ストレスを与えないよう間断灌水を実施し、湿潤状態を保つ。

(2) 穂肥

- 必ず「穂肥診断（草丈・葉色・幼穂長の確認）」を実施し、表1～3を参考に施用時期が遅れないように穂肥を施用する。

①「さがびより」の穂肥判断基準

表1 さがびよりの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	22～20	19～18	18～16	16～15
主稈の幼穂長 (mm)	1～2	3～5	5～15	15～80

穂肥時期の目安

表2 さがびよりの穂肥診断基準

幼穂1mmの時の草丈	葉色	葉色版群落葉色	SPAD	幼穂長 (mm)	BB602の施用量 (kg/10a)
75cm以下	淡い	2.5以下	34以下	5	15kg
	標準	3.0～3.5	34～38	10	10kg
	やや濃い	3.5～3.8	38～39	15	7.5kg
	濃い	3.8以上	39以上	施用しない	
75cm～80cm	淡い	3.0以下	34以下	10～15	10kg
	標準～濃い	3.0以上	37以上	施用しない	
80cm以上	施用しない				

※早くても幼穂長が5mmになっていることを確認して穂肥を施用する。

※葉色が濃い圃場や幼穂長が15mm以上になっている圃場での穂肥施用は、食味低下が懸念されるため、穂肥は施用しない。

③「ヒヨクモチ」の穂肥判断基準

表3. ヒヨクモチの穂肥時期と穂肥量

肥料	穂肥Ⅰ施用量 (kg/10a)	施用時期の目安	穂肥Ⅱ施用量 (kg/10a)	施用時期の目安	実肥施用量 (kg/10a)
LPBB804	40 (平坦:JA さが東部地区)	8月20日頃	なし	—	なし
	35 (山麓:JA さが東部地区)				
	30 (JA 神埼地区)				
BB602	25 (平坦:JA さが東部)	8月20日頃	10 (JA さが東部)	8月24日～26日 (穂肥Ⅰの10日後)	10 (JA さが東部)
	25 (JA 神埼地区)		15 (JA 神埼地区)		

注1) 大豆跡の圃場では、穂肥の散布を控えるか、上記施用量の5割未満に減肥して施用する。

注2) 実肥を施用する場合は、穂揃期（平年：9月8日～10日頃）に施用する。

(3) 病害虫防除

- 「病害虫発生予察情報第4号(7/27発表)」による主な病害虫の8月予報は以下のとおり。
各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

① トビイロウンカ・・・やや多

- 「発生予測図第3版(8/16作成)」では、各世代の発生予測時期が第2版より1日遅くなっている。
- 8/16調査した圃場では、トビイロウンカは確認していないが、その他ウンカ類の幼虫を確認している。

※本年は多発生条件となっており、今後急増する場合もあるため、発生状況に注意し、適期防除に努める。防除適期は「幼虫心化揃い期」

- 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター

防除適期②
8/21~8/26頃

防除適期③
9/21~9/26頃
農薬の使用晩限に注意

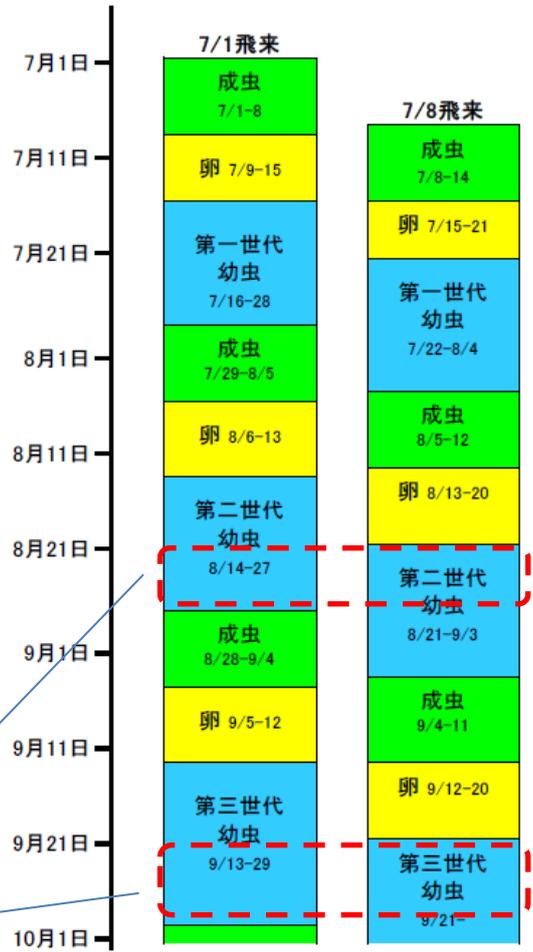


図 トビイロウンカの発生予測
第3版、2023年8月16日作成

② 紋枯病・・・やや多

- 高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が発生しやすくなるため注意する。
- 病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展(垂直進展)する時期に防除を検討する。(液剤・粉剤の場合は、出穂前10~20日間を目安)



写真 紋枯病の病斑
(前年撮影したもの)

③ コブノメイガ・・・やや多

- 一部圃場で葉の食害がみられる。
- 止葉を含む上位3葉に被害が出ると減収につながるため、圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫心化揃い期(発蛾最盛期の7日後)に防除を実施する。

④ 斑点米カメムシ・・・やや多い

- 耕種的な防除として、畦畔除草を出穂10日前までに行う。
- 乳熟期(穂揃い期の約10日後)を中心に農薬防除を行い、多発生の場合はその7~10日後に2回目防除を行う。
- 防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

大豆の今後の管理について

7月15日播種で本葉7~8葉、7月20日以降播種で本葉5~6葉程度、一部の6月下旬播種では開花始めとなっている。
 播種時の圃場の水分条件、その後の降雨の有無により圃場間での生育格差が大きい。
 今後、大豆の生育とともに必要とする水量が多くなるため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分の確保を図る。

(1) 今後の天候について

参考) 週間天気予報 (佐賀県8月17日17時時点 佐賀地方気象台より)

日付	今夜 17日(木)	明日 18日(金)	明後日 19日(土)	20日(日)	21日(月)	22日(火)	23日(水)	24日(木)
佐賀県	曇後雨 	曇時々雨 	曇時々晴 	晴時々曇 	晴時々曇 	曇時々晴 	曇時々晴 	曇時々晴
降水確率(%)	-/-/80	60/30/50/30	40	20	30	30	30	30
信頼度	-	-	-	A	B	B	B	B
佐賀 気温 (℃)	最高	-	34 (33~37)	36 (34~38)	35 (33~37)	34 (32~37)	34 (32~36)	34 (32~36)
	最低	-	26 (24~27)	26 (25~27)	26 (24~27)	26 (24~27)	26 (24~27)	26 (25~28)

(2) 除草剤について

- ・雑草の発生が多い圃場が散見される。発生が多い圃場では、生育期の茎葉処理剤を散布する。
 - ・イネ科の残草が多い場合はポルトフロアブル、ナブ乳剤、セレクト乳剤。
 - ・広葉の残草が多い場合は大豆バサグラン、アタックショット乳剤等。大豆の2葉期~開花前まで
- ・アサガオ類、ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内侵入防止に努める。また、圃場内に発生している場合は、発生が少ないうちに雑草の開花や結実前までに茎葉処理剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

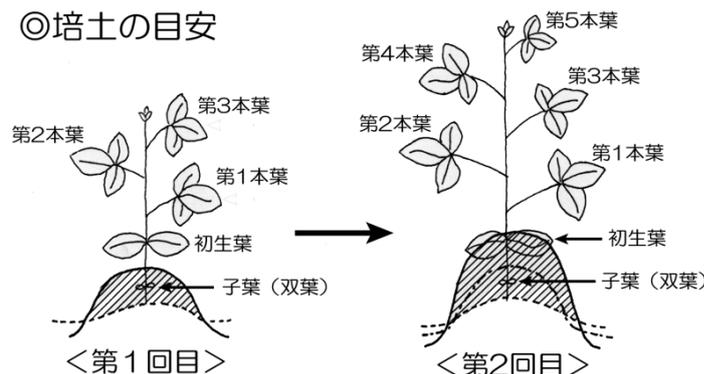
(3) 中耕・培土の実施

- ・本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。
- ・本葉が5枚開いているのを確認したら、初生葉（子葉の上の葉）が隠れる程度まで2回目の培土を行う。
- ・特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行う。

※本年は高温、少雨の影響で圃場が干ばつ傾向となっている。

気温が高い日中に培土すると、土壌水分の蒸散を助長し、乾燥害を生じる恐れがあるため、作業は夕方以降が望ましい。

◎培土の目安



(4) 病害虫対策

・「病害虫発生予察情報第5号(8/9発表)」による主な病害虫の8月下旬予報は以下のとおり。各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

①ハスモンヨトウ・・・やや多

- ・気象庁の1ヶ月予報では「気温は高く、降水量はやや多い」とされており、多発生の条件となっている。
- ・防除適期は、若齢幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上(体長約2cm以上)になると防除効果が低下する。
- ・防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている場合は再防除が必要。

②カメムシ類・・・やや多

- ・気象庁の1ヶ月予報では「気温は高い」とされており、多発生の条件となっている。
- ・防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期である。

③その他

- ・防除センターの8月上旬県内調査でオオタバコガやウワバ類の寄生が確認されている。
- ・ハスモンヨトウによる白変葉と異なり、葉に穴が開くように食害されている場合は、オオタバコガ等の虫害と考えられる。
- ・オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンの感受性が低下しているため、使用を避ける。



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



シロイチモジヨトウ

令和5年産水稲生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

三神農業振興センター

